



子ども樹木博士 ニュース

2015 - 9

No. 60

子ども樹木博士認定活動推進協議会

巻頭言

身近で自分の木を見つけよう



上川中部森林管理署長 浪岡 保男

子ども樹木博士認定会との出会いは、北海道森林管理局の函館分局（当時）に勤務していた平成 12 年に、上司からの「6 月に子ども樹木博士認定活動推進協議会が発足したので、函館でも開催してみよう」の言葉でした。急きょ、樹木の見分け方に精通している職員の指導の下、分局の庭で、従事職員が何度も分かり易い説明を練習し、8 月に全国 2 番目に開催しました。また、平成 15 年 1 月には冬芽による認定会も開催しています。開催を通じて、「子どもたちはひとつでも多く正解しようと真剣。点数ではなく、段級認定なので参加者の満足度が高い。幼稚園児でも初段が出る。再挑戦したいとの声も多い」等から大変素晴らしいシステムと感じました。

さて、現在の勤務地旭川は、周囲に豊かな森林が広がり木材産業が盛んなことから「木の町あさひかわ」と言われますが、近年、市民には馴染みの薄い言葉となっています。また、子どもたち等が森林や木にふれあう機会も減っています。

このため、平成 25 年 12 月に発足した「木の町あさひかわ」木育を進める会（旭川大学短期大学部森重正也教授（会長）、北海道森林管理局（旭川事務所、上川中部署等）、上川総合振興局（南部森林室等）、旭川市役所（子育て支援部等）、日本森林林業振興会旭

川支部、旭川地方森林整備事業協同組合、北海道立総合研究機構林産試験場）では、特に次世代を担う子どもたちに森林づくりや木の良さを伝えようと保育所、幼稚園等を対象に、「本物の木でのクリスマスツリー展示（68 施設）」、「木のプール・木製玩具の貸出（15 施設）」、「木育講座（4 施設）」等を実施しています。

とりわけトドマツやアカエゾマツの間伐木の梢を活用したクリスマスツリー展示は好評で、「本物の木できれい。いいにおいがする。ちくちくする。松ヤニが出る」等、本物の木でないと分からない観察・発見にも役立ちました。また、木育講座では、木育マイスターの大和正枝さんから保育士等に、「（身近で）自分の木を見つけて下さい。子どもたちと一緒に、若葉、花、紅葉、結実、落葉等（1 年を通じて）観察を続けて、触れ合うことにより、子どもたちも木への愛着がどんどんわいてきますよ」旨の話もありました。

そこで、樹木の名前、特徴等を学んでいただき、それを踏まえて、身近で自分の木を見つけて、子どもたちと観察し、樹木等への関心を深めていただきたいとの思いから、9 月に、親子とともに、保育士等を対象に樹木博士認定会も開催する予定です。皆様も、身近で自分の木を見つけ、四季を通じて観察してみたいかがでしょうか。きっと様々な発見があると思います。

【目次】

巻頭言	身近で自分の木を見つけよう	上川中部森林管理署長	浪岡 保男 … 1
特集 I	森のエピソード(2)ーカエデー	森林インストラクター	小菅 智彦 … 2
特集 II	森を楽しくー名誉森林インストラクター 故・山中寅文先生の思い出ー(連載 6)	(一社)日本森林インストラクター協会 常務理事・事務局長	寺嶋 嘉春 … 3
特集 III	子ども樹木博士認定活動の実施について(2)ー放課後活動での子ども樹木博士認定活動ー	森林インストラクター	柳原 高文 … 4
事例報告	東京大学田無演習林の子ども樹木博士	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	楠本 大 … 5
シリーズ	東南アジアの木々たち(29)ー葉と魔除けのクロプー	自然と植物の観察会 TREECIRCLE	梅本 浩史 … 6
	子ども樹木博士質問コーナー(40)	茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター	堀内 孝雄 … 7
事務局だより	第 15 回通常総会の開催について(報告)		8



森のエピソード (2) —カエデ—



森林インストラクター 小菅 智彦

数ある樹木の中でも日本人にとって親しみのあるものにカエデの仲間があげられます。特に赤や黄色に色づいた秋のカエデは印象的で、奥入瀬渓谷、日光、京都と名だたる紅葉の名所には毎年多くの人が訪れ、その美しさは海外にも知られています。

そもそも日本は世界有数のカエデ大国で、自生種の数も26種類とも27種類ともいわれます。その中でも代表的なものが「イロハモミジ」や「オオモミジ」で、1枚の葉が掌状に5~9裂するお馴染みの形状をしています。その裂片の数をイロハニホヘトと数えたことからイロハモミジ、それよりも葉が広くて大きいからオオモミジと、名前の由来もいたってシンプルです。

ところでこれらの樹種を総称する「カエデ」と「モミジ」はどう区別されるのでしょうか。カエデの呼称は、もともとは葉の形状が蛙の手に似ていることから「かえる手」、それが転じて「かえで」になったといわれています。一方、モミジの呼称は、葉が秋に赤や黄色に色づく様子を表した「もみづ」という古語が「もみじ」と名詞化したものといわれます。結局はカエデ科という総称の中にイロハモミジやオオモミジのように「〇〇モミジ」という樹種名が存在しているのが実態といえそうです。(注：近年の研究でカエデ科をムクロジ科の一系統とする APG 植物分類体系もあります。)

しかし、このカエデ科の仲間は蛙の手のように掌状

に裂片が分かれる葉を持つものばかりとは限りません。葉が浅く5~7裂する「イタヤカエデ」や、天狗の葉うちわのように7~11裂する「ハウチワカエデ」、亜高山帯に生える「ミネカエデ」は許容範囲としても、「ヒトツバカエデ」のように葉っぱの裂片がないものや「メグスリノキ」のように3つの小葉で複葉を構成するものなど、カエデらしくない葉をもつ仲間も存在します。それではカエデ科に共通する特徴とは何でしょうか。

カエデの仲間を見分ける上で重要なポイントが2つあります。まずは葉のつき方です。前述のように葉の形は様々ですが、葉は必ず枝の左右にきちんと向かい合ってつく対生になります。モミジバフウやモミジバズカケノキなど、一見カエデらしい形状の葉をつける樹種もありますが、これらは葉が左右互い違いにつく互生。したがってカエデ科ではありません。次に果実の形状です。カエデ科の果実は翼果と呼ばれ、V字型又はプロペラ型についた1対の種子と翼がセットになっています。やがて2つの種子が分かれ、種子と片翼になった翼のユニットが風に乗ってくるくと回転しながら飛ばされていくのです。こうした種子散布の方法は風散布と呼ばれ、種子についた翼は、空中の滞留時間を長くして、より遠くに種子を飛ばすための工夫なのです。



カエデの葉 (イロハモミジ)



カエデの翼果 (ミネカエデ)

特集Ⅱ

森を楽しく

—名誉森林インストラクター 故・山中寅文先生の思い出—
(連載6)



(一社)日本森林インストラクター協会 常務理事・事務局長 寺嶋 嘉春

平成4年に名誉森林インストラクターの称号を付与された山中寅文氏から数多くのことを学びました。植物が話すことを代弁するような、鹿児島なまりのユーモア溢れる語り口は忘れることはありません。山中寅文氏と森を歩いた時の多くの楽しい思い出は、筆者にとって、今でも「森を楽しく」感じる源となっています。

20年以上前になりますが、山中寅文氏は「五感で覚える植物の名」という話をされたことがあります。草木の名前を覚えるのは、ひとりひとりの子どもの個性を認めるのと同じで、それは植物への理解を深める一歩であり、その覚え方にはコツがある。それは、身体の部分や五感を利用して覚えるということで、名前を覚えるのがどんなに苦手の人でも、100ぐらいの植物はすぐに覚えられると話されました。

*

次に該当する、知っている草木の名前を思い浮かべてみると、草木の名前が本当にたくさん出てきます。

《視覚》

- 1 花の色 樹の花、草の花、(白・赤・黄・紫・青)
- 2 果実の色 (白、赤、黄、紫、黒)
- 3 樹皮の色
白：シラカバ、タンナサワフタギ、ムクノキ
赤茶色：バクチノキ、ヒメシャラ、ナツツバキ
斑入り：カゴノキ、カリン、サルスベリ
- 4 紅葉、黄葉
- 5 葉に斑が入ったもの キンマサキ、ファイリアオキ
- 6 シダレ シダレウメ、シダレカツラ、シダレモモ
- 7 つる フジ、ツルマサキ、テイカカヅラ
- 8 竹、笹 モウソウチク、マダケ、ヤダケ、メダケ
- 9 ヤシ、ソテツ ショロチク、トウジュロ

《聴覚》

- 1 葉のすれ合う音「シャラ、シャラ」
ソヨゴ、ヤマナラシ、イタリーポブラなど
- 2 冬芽が大きく芽鱗が落下するとき「ザー、ザー」
アカシデ、イヌシデ、クマシデ、ブナ、イヌブナ

- 3 大型の葉で落ちるとき「バサッ」
アオギリ、ホオノキ、トチノキ、キリ
- 4 大きな球果や種子が落ちたときの音
マツ、クリ、コナラ、カシ、トチノキなど
- 5 種子が飛び出すとき「パチッ」
フジ、マンサク、マルバノキ、トサミズキなど
- 6 果実を耳のそばでふつてみると「カサカサ」
ムクロジ、イヌエンジュ、ネムノキなど

《嗅覚》

- 1 芳香のある花 ウメ、ロウバイ、ジンチョウゲ
- 2 悪臭のある花 シイノキ、クリ、ヒサカキ
- 3 芳香のある葉 ニオイヒバ、ニッケイ
- 4 悪臭のある葉 クサギ、コクサギ、カリガネソウ
- 5 木皮に芳香がある クスノキ、タムシバ、ヒノキ
- 6 芳香の種子 ダンコウバイ、テンダイウヤク

《味覚》

- 1 食べられる木の葉 ハナイカダ、マユミ、クコ
- 2 食べられる草 セリ、ナズナ、タンポポ
- 3 食べられる花 キク、スマレ、イカリソウ
- 4 甘い蜜を出す花 ツバキ、スイカズラ、クズ
- 5 甘い葉 アマチャ、コアマチャ、ヤマアジサイ
- 6 甘い根 アマドコロ、アマナ、チガヤ
- 7 酸っぱい味 スイバ、ギシギシ、スノキ
- 8 特に枝葉が苦い キハダ、ニガキ、ニガナ
- 9 美味しい果実 モミジイチゴ、アケビ、グミ
- 10 食べると中毒 シキミ、ドクウツギ

《触覚》

- 1 葉に触れると痛い樹 カラタチ、サンショウ
- 2 樹液でかぶれる ヤマウルシ、ツタウルシ
- 3 果肉などでかぶれる ギンナン、カヤ、ヌルデ
- 4 幼木の歯がするどい鋸歯葉となる
ヤマモモ、ヒイラギ、リンボク、カクレミノ
- 5 葉の細毛でアレルギーになる
スズカケノキ、アメリカスズカケノキ、モミジバ
スズカケノキ

葉の付き方、髓の形(ナイフで切る)、葉の裏の気孔線、植物遊び(ゾウリ、糸を引く葉)などの区分



子ども樹木博士認定活動の実施について(2) —放課後活動での子ども樹木博士認定活動—

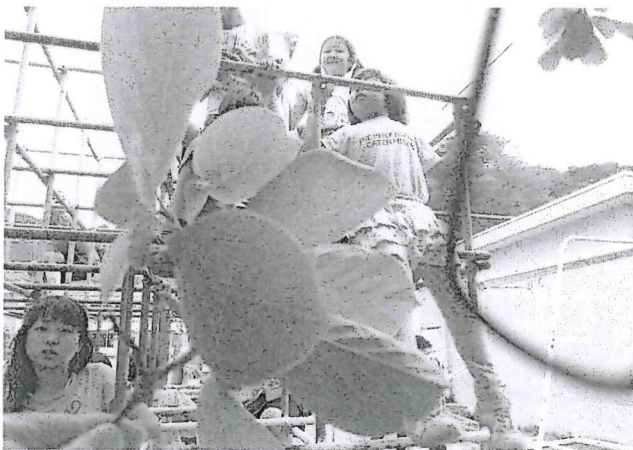


森林インストラクター 柳原 高文

宇都宮市立城山西小学校で子ども樹木博士認定活動を行ってきました。この小学校では、桜スクールという放課後活動が行われています。そのなかで、自然楽校(しぜんがっこう)という地域の自然に触れる活動を定期的に行っています。その効果もあり、高学年になればある程度の樹の名前を覚えています。選定樹木は、ユリノキ・マツ・トチノキ・ハクモクレン・フジ・サクラ・カエデ・ユズ・メタセコイア・イチヨウの10本。すべて校庭の樹木を選びました。

樹の説明をしながら葉・芽・実が分かるように枝を切っていきます。低学年は、真剣に話を聞きますが、高学年は「こんなの知ってるも〜ん」「樹の下に名札があるからわかるも〜ん」とまじめに話を聞きません。校庭を移動しながら説明をしていきます。「この樹はハクモクレンです。春に白い花が咲いていましたね。」説明をしていたら、子ども達は直ぐそばのジャングルジムに登りながら話を聞いています。確かに、子どもの身長で下から見上げるよりも、ジャングルジムの上から見ると実まで観察することができます。感心しながら、フジの説明に入ると今度はブランコに乗って話を聞き始めました。次は埋め込んだタイヤに乗りながら…「この子どもは自由にのびのびしているんだ!」と自分に言い聞かせながら説明を続けました。

順番変えて、名前の紙もなくすよ!」、知っていると自信満々の高学年の顔つきが真剣になりました。葉・芽・実だけの枝になるとよく分からない…ここで初めて良く見始めました。まだ、ひらがなが上手にかけない1年生がいるので、解答用紙は、番号と名前を線で結ぶ形にしました。番号の上に葉・芽・実のついた植物を乗せ一人ずつ順番に並んで答えていきます。いざ試験になるとさすが高学年、全問正解者が続出、頑張った低学年にも全問正解者が見られました。「これ面白い!またやって!」、1年生の男子がリクエストをしてきました。きちんと樹木を観察する楽しさ、試験をすることで得られる達成感、この活動の意義を改めて感じさせられた活動でした。



ジャングルジムの上から観察する子どもたち



復習タイム



試験のときは真剣です

そして、試験前の復習タイムがやってきました。名前の書いてある紙の上に枝を並べて、「試験になると

事例 報告

東京大学田無演習林の 子ども樹木博士



東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林 楠本 大

東京大学は全国 7ヵ所に演習林を持っています。その中の一つ、田無演習林は東京都西東京市にあるわずか 9 ha の小さな演習林です。田無演習林の周りほとんどが住宅街となっており、その中にある演習林は都会のオアシスとして、地域の人々に親しまれています。

田無演習林では年 2 回春秋、市民団体と共同で子ども樹木博士を実施し、平成 27 年 6 月 7 日に第 26 回を行いました。当日は 9 時半頃からスタートし、2 時間ほどかけて演習林内を一周します。解説は演習林の教職員の他に、体験ゼミ「都市の緑のインタープリター養成」に参加している大学 1・2 年生にも担当してもらっています。まず樹木を見て回る前に、大学生による「樹木にはこんなに沢山の生き物がいるよ」や「木の名前を覚えるとこんないいことがあるよ」などの寸劇や紙芝居を披露してもらい、子どもたちの気持ちを高めてから樹木の勉強をスタートします。参加する子どもは、初めて参加する小学校低学年の子どもから樹木に詳しい中学生の子どもまで年齢や知識に差があるため、難易度の違う 3 コースを設けています。種数は入門コースを 10 種、挑戦コースを 20 種、博士コースを 30 種としています。10 人ほどを一班として引率しますが、入門コースが 2 班、他が 1 班ずつとなることが多いです。解説内容は見た目の特徴から生き物との関わり、人の生活における利用まで多岐に亘ります。入門コースは時間がたっぷりあるので、カエデの種を飛ばしてみたり、マツ葉で引っ張り合いをしてみたり、自然で遊ぶことを織り交ぜながら散策するようにしています。

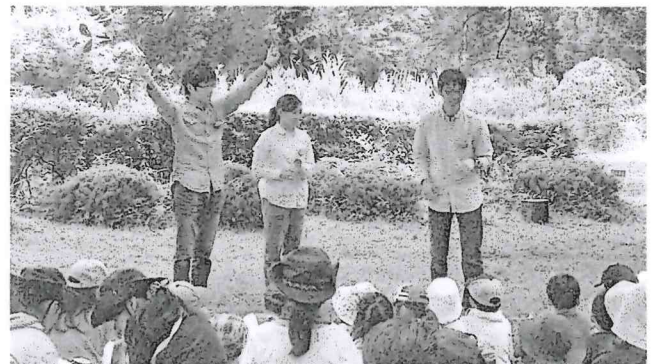
勉強の後は、昼食をはさんで、30 分の復習と 30 分の試験を野外で行います。コース毎に解答するテーブルが決まっています、そこに置いてある枝を見ながら樹種名を答えます。すぐに終わって遊んでいる子もいれ

ば、最後まで粘って答えようとしている子もいます。時には、答えが出てこなくて悔し涙を流している子もいて、子どもが夢中になっているのを感じます。

試験の後は 1 時間ほど、大学生が中心となってネイチャーゲームを行います。目隠しをして森の中を歩いてみたり、お題に沿って森に落ちているものを探してみたり、初めて経験するゲームにワーキヤー言いながら、みんなで楽しく盛り上がります。秋はどんぐりや松ぼっくりでクラフトを行い、こちらは大変好評です。

採点が終わると、認定証の授与式です。毎回、成績優秀な子が多く、満点の子も沢山みられます。帰り際には子どもたちから「1 日楽しかった」や「また来たい」の声がよく聞かれます。保護者からも「次はいつか」の質問がよく出ます。そんな時、毎年の開催時期を決めておくと、次回の案内ができてよいと思います。

最近、「子ども樹木博士に参加して楽しかった」という情報が子どもや親の間で広がり、ある程度地域に認知されてきているように感じます。申込みは毎回、子どもが約 40 人と、ちょうどいい人数に納まっています。そのうち 2、3 割がリピーターで、最大 9 回参加の子がいます。子どもたちに沢山参加してもらうには、「楽しいからまた来たい」と思わせるような工夫が大切なのだと考えています。



大学生による寸劇「木と友達になろう！」

◆実施団体等へのお願い◆

- 認定活動を実施された場合は、その実施結果についてご報告をお願いします。
- 報告用紙は、ホームページからもダウンロードできます。
- 用紙がないなどの場合は、実施団体名・実施年月日・募集対象と人数・参加者数・実施場所などをメモ書きしていただき、FAX 又はメールなどで事務局までお送りください。

シリーズ

東南アジアの木々たち (29)

一薬と魔除けのクローブ



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

東南アジアの国々で出会える、様々な個性・特徴を持った木々たち。その中には、私達の生活に関わりの深い樹種も決して少なくありません。今回は、強く刺激的な芳香をもつスパイス「クローブ」(チョウジ)のお話でしたが、今回もその続きです。

クローブ(CLOVE)は、古くは紀元前から薬用植物や香辛料・香料などとして用いられてきた有用な樹木のひとつ。開花前の蕾を乾燥させて、それを様々な用途で用いてきました。現在の私達の身の回りにある

物で、最も馴染みのあるクローブの加工品は、スーパーなどの香辛料の棚に並ぶクローブパウダーでしょうね。

クローブには、この香辛料とは別に、「お薬」としての効能も知られています。防腐・殺菌作用があり、健胃薬や抗菌剤、局所麻酔薬や鎮痛剤に配合されたりと、とても幅広い効果を持ちます。また「歯医者さんのハーブ」と呼ばれることがあるほど、歯痛への麻酔効果は強く、私自身も応急処置で体験済みです。(笑)



左から、粉末化したクローブの香辛料のビンと粉末・蕾の状態のクローブ

さて、季節外れではありますが、欧州ではクリスマス・新年シーズンにクローブと果物を用いた香りの装飾を作る風習があります。中世の欧州では、魔除け・

疫病除けに作られる「お守り」で、ポマンダーと呼ばれるんです。本当に、奥の深い植物ですよ。



子ども樹木博士質問コーナー (40)

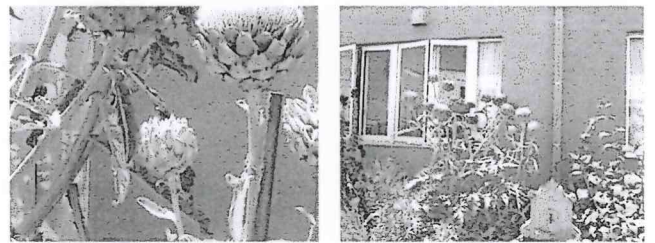
茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター 堀内 孝雄



Q 花壇に植えられた植物で、葉っぱやつぼみが巨大なアザミのお化けのような見なれない不思議な植物に出会いました。この植物は、何というものですか。

A それはアーティチョークという名の植物です。ヨーロッパやアメリカでは、よく知られて食べられている野菜ですが、日本ではまだよく知られていない西洋野菜の一つです。アーティチョークは和名ではチョウセンアザミと呼び、可食部はつぼみです。ソフトボール大のつぼみをゆでたり蒸してサラダなどにして食べます。キク科キナラ (*Cynara*) 属 (チョウセンアザミ属) の植物です。チョウセンアザミ属には、11 種あると言われますが、そのうちで食用にされるのは 2 種で、そのひとつはカルドンとよばれるキナラ・コルドクルス (*C. cordocurus*) です。もうひとつは、このカルドンを改良して生まれたアーティチョークです。この学名はキナラ・スコリムス (*C. scolimus*) です。チョウセンアザミは、地中海沿岸、カナリア諸島を原産地とする植物でヨーロッパ南部、中央部やアメリカのカリフォルニアなどで栽培されて

います。日本には、江戸時代に渡来したと言われますが、日本人の食生活や、日本の気候に合わなかったようで、あまり普及せず現在でもほとんど栽培されていないようです。栽培上の問題は、冬の寒さと冬越しです。比較的耐寒性があるので、氷点下 1~5℃ 程度なら耐えられますが、氷点下 7~8℃ 以下になる寒冷地では、防寒が必要です。花が美しいので観賞用に栽培されているのが現状といえます。野菜にしても、所変われば品変わるといわれるようにいろいろ違ったものが見られます。興味と関心を持って多くの植物や自然の不思議、神秘さを観察し、それらを人に知らせましょう。こうしたことにより植物や自然に対する興味が一層深まってくると思います。



アーティチョーク (和名チョウセンアザミ)

Q アメリカシャクナゲという名の木の鉢植えをもらって育てていましたが、ようやく花を咲かせました。思いもよらぬ小さな花で驚いています。アメリカシャクナゲという植物は、一体どんな樹木なのでしょう。

A アメリカシャクナゲとよばれる植物は、カルミアというツツジ科カルミア属 (*Kalmia*) の常緑低木です。この属には 7 種の植物が知られています。北アメリカ原産の植物です。日本でよく目にするものは、カルミア・ラティフォリア (*K. latifolia*) です。花のつぼみは金平糖状でパラソルのような小さな花を枝葉が隠れるほど多く咲かせます。花色はふつう白や淡紅色ですが、紅色や濃紅色など多くの品種が作出されています。ハナガサシャクナゲの別名もあります。

カルミアは大正時代初期に、日本に導入されたと言われますが、よく目につくようになったのは、自然に対する関心や緑化推進によって各地に多くの公園や緑地が造成されるようになった昭和 30 年代半ば以降のようです。なお、カルミアという属名は、18 世紀にアメリカの植物を研究したスウェーデンの植物学者ケール・カルムにちなむと言われます。



カルミア・ラティフォリアの花

● ● 事務局だより ● ●

◆第15回通常総会の開催について（報告）

7月27日(月)、林友ビル（東京都文京区）の会議室において、当協議会の第15回通常総会が開催されました。なお、総会に先立って、第17回役員会が開催されました。

総会では、先ず井上公基会長（日本大学生物資源科学部教授）の開会の挨拶があり、続いて来賓として出席いただいた林野庁森林利用課の赤堀課長から子ども樹木博士認定活動への期待を込めた祝辞をいただきました。引き続き、来賓としてご出席していただいた林野庁の担当官の紹介が行われました。

議事では、平成26年度活動報告及び収支決算報告の承認に続いて、平成27年度活動計画(案)及び収支決算(案)について審議が行われ、拍手をもって承認されました。

また、今年度は、役員改選の年であり、役員名簿のとおり選任されました。

総会終了後、東京農工大学名誉教授の木平勇吉先生（当協議会幹事（前会長））から、「子ども樹木博士活動の推進について」と題して特別講演が行われました。講演では、先生から子ども樹木博士のプログラムを樹木の名前の識別のみでなく、その範囲をもっと広げ、面白いものに発展させることが必要でないかとの新たな提案がありました。その後、先生の指導により新たなプログラムの一例として押し葉とラミネートフィルムを使った工作の実習が行われました。

平成26年度活動報告の概要は次のとおりです。

- 1 機関誌「子ども樹木博士ニュース」を年4回発行、配布
- 2 認定活動等の実施状況（実施団体から事務局に報告等されたもの）
 - ・実施回数で述べ63回、参加人数で述べ約17百人（前年度：72回、約20百人）
- 3 「認定証」、「認定活動の進め方」、その他資料等の配布
- 4 新しい「子ども樹木博士のための樹木ガイド」の普及
- 5 インストラクターの紹介等
- 6 「森林からはじまるエコライフ展2014」におけるパンフレットの配布、ホームページ逐次更新

平成27年度の活動計画については、平成26年度に実施した活動とほぼ同様です。（掲載略）

◆役員名簿

顧問	箕輪 光博	(一財)林業経済研究所 理事長
会長	井上 公基	日本大学生物資源学部教授
幹事	木平 勇吉	東京農工大学名誉教授
〃	梶谷 辰哉	(公社)国土緑化推進機構 専務理事
〃	中川 重年	京都学園大学バイオ環境学部教授
〃	肘黒 直次	全国森林組合連合会 専務理事
〃	堀内 孝雄	茨城県植物園 緑のインタープリター
〃	渡辺 政一	(一社)全国林業改良普及協会 専務理事
〃	宮本 基杖	(国研)森林総合研究所 広報普及科長
〃	森田 一行	(一社)全国木材組合連合会 常務理事
〃	宮林 茂幸	東京農業大学地域環境科学部教授
〃	渡辺 直明	東京農工大学 SF センター助教
〃	石島 操	日本造林協会 副会長
〃	寺嶋 嘉春	(一社)日本森林インストラクター協会 専務理事
事務局長	木下 喜博	(一社)全国森林レクリエーション協会
監事	玉川 佐久良	(一財)木原営林大和事業財団 監事
〃	西堀 稔	三井住友海上火災保険(株) 顧問



祝辞を述べる赤堀課長

子ども樹木博士ニュース

2015年9月1日 No.60

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階

一般社団法人全国森林レクリエーション協会内

TEL: 03-5840-7471 FAX: 03-5840-7472

E-mail: kodomohakase@shinrinreku.jp

URL: <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyou.html>

<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>